

## マーティン・フェルドシュタイン

Martin S. Feldstein 1939-

### マクロ、財政、社会保障で大きな業績

若くしてハーバード大学の教授となり、学術研究はもちろん、政策にも大きな貢献を果たす。  
また、同大学から多くの著名経済学者を育てたことでも、彼の米国経済への貢献は計り知れない。

Charles Yuji Horioka

チャールズ・ユウジ・ホリオカ (大阪大学社会経済研究所招聘教授)

マーティン・スチュアート・フェルドシュタインは、1939年にアメリカのニューヨーク市で生まれた。61年にハーバード大学経済学部を最優秀の成績で卒業し、67年にイギリスのオックスフォード大学より経済学博士号を取得した。博士号取得後、ハーバード大学経済学部の助教授となり、わずか2年後に29歳の若さで教授に昇進し、終身在職権を取得した。

マクロ経済学、財政学、社会保障、医療経済学などにおいて顕著な業績を挙げており、毎年、ノーベル経済学賞の受賞最有力候補に挙げられている。

私が学部4年生の際、夏休みのアルバイトを探していた時に、フェルドシュタインが研究助手を雇っているという噂を聞き、さっそく彼に会いに行ってみることにした。私のことを何も知らなかったにもかかわらず、フェルドシュタインは、その場で研究助手として採用してくれた。以後4年間、私は彼の研究の手伝いをさせてもらった。

研究室では、週に1回は研究の打ち合わせを行い、その度にフェルドシュタインの洞察力、想像力、知識、関心の深さに感服させられた。彼と議論を交わすことにより、研究の手法など授業では学べないさまざまなことを教わった。この貴重な経験は、

その後の私の研究活動に大きな影響を与えた。

#### 最も引用される論文

助手の仕事の 일환として、資本の国際移動に関する研究の手伝いをさせてもらったことがある。その際に彼と共著で書いた論文は、80年にイギリスの王立経済学会の機関誌『エコノミック・ジャーナル』に掲載された。この論文は「人々は貯蓄を自国に投資する傾向が強い」という結果を発表したのだが、この現象はその後、「フェルドシュタイン・ホリオカ・パラドックス(逆説) またはパズル(謎)」と名付けられた。同論文は、国際経済学の分野では、今日最も引用回数が多い論文の一つとなっている。

フェルドシュタインは、この論文以外にも先駆的な業績を多数挙げており、360本以上の学術論文を発表している。これらの論文の多くは、社会保障制度や税制をはじめとするさまざまな経済政策が、個人・企業の行動を大きく左右するということを、綿密な計量分析を行って示している。

フェルドシュタインの最も有名な研究は、公的年金と家計貯蓄との関係に関するものである。

賦課方式の公的年金制度が家計貯

蓄に与える効果は少なくとも二つあると彼が指摘している。それは、公的年金制度を導入すると、自ら老後に備える必要性が薄れ、家計は貯蓄を減らす(資産代替効果)一方で、このような制度は人々の早期退職を促して退職後の期間が長くなるため、家計はより多くの貯蓄をしなければならぬ(退職促進効果)——というものだ。

したがって、賦課方式の公的年金制度が家計貯蓄を増やすか、減らすかは一概には言えない。

しかし、フェルドシュタインは、さまざまなデータを用いて検証した結果、資産代替効果が退職促進効果を上回るため、この制度は家計貯蓄を大きく減少させ、資本蓄積に悪影響を与えるという結論を出している。

それ以外の研究では、加速償却などのような投資に対する税制面の優遇措置は、企業の資本蓄積を増加さ

せ、経済成長を促進するということが、株式のキャピタルゲイン(売買差益)に対する課税は株式の売買を抑制し、税収を減らすということなどを示している。

このような研究業績が評価され、フェルドシュタインは、40歳以下の最も優秀なアメリカ人経済学者に贈られるアメリカ経済学会のジョン・ベーツ・クラーク・メダルという名誉ある賞を77年に受賞し、2004年にはアメリカ経済学会の会長に選ばれた。

フェルドシュタインは顕著な研究

## 大学で人気の経済原論講義 寄稿は分かりやすい表現で

業績を挙げただけではなく、経済学界の発展にも大きく貢献している。

アメリカで最も見識の高い経済系の研究所で、かつアメリカの景気循環を決める機関としても有名な全米経済研究所(NBER: National Bureau of Economic Research)の所長に37歳の若さで77年に就任。

その後、NBERは大きく成長し、実証研究を行っている一流の経済学者のほとんどは、NBERの研究プロジェクトにリサーチ・アシエーターとして参画している。

また、フェルドシュタインはアメ

リカの経済政策の運営にも深く関わっており、82年から約2年間、大統領経済諮問委員会委員長としてレーガン大統領の経済ブレーンを務め、連邦政府の財政赤字の拡大の危険性について強く主張した。

06年には、ブッシュ大統領によって大統領対外インテリジェンス諮問会議委員に任命され、09年には、オバマ大統領によって大統領経済回復顧問委員会委員にも任命された。また、バーナンキ氏が06年に連邦準備制度理事会(FRB)議長に就任した際、最後まで対立候補として残っ

たのがフェルドシュタインであった。彼はこのような公職を通して経済政策の運営に大きく貢献し、政策としては、高額所得者に対して公的年金給付を課税対象にする改革などを実現した。

フェルドシュタインは教育者として、後輩の育成にも大きく貢献している。長年、ハーバード大学で経済原論の講義を担当しており、この講義は毎回受講生が1000人を超えるほど、学部を問わず最も人気のあるものであった。

グレン・ハバード(コロンビア大

学教授・経営学大学院研究科長、元大統領経済諮問委員会委員長)、ジェームズ・ポテルバ(マサチューセッツ工科大学教授、NBER所長)、ローレンス・サマーズ(ジョン・ベーツ・クラーク・メダル受賞者、ハーバード大学教授、元財務長官、元世界銀行チーフエコノミスト)、元ハーバード大学学長、元国家経済会議委員長)など多数の大物経済学者を育てている。

加えて、彼は『ウォール・ストリート・ジャーナル』など新聞・雑誌に(多くの場合、経済学者であるキヤスリーン夫人と共著で)頻繁に寄稿しており、さまざまな経済問題について政策提言を行っている。フェルドシュタインは研究者としての優れた知性はもちろん、難しいことを一般の人にも分かりやすく説明できる能力にも優れており、それらの寄稿や講演などが好評であることは言うまでもない。

フェルドシュタインは学術研究や経済学界の発展、経済政策、教育など幅広い分野で活躍しており、これだけ多方面に及んだ貢献をしている経済学者は他にいないであろう。73歳である現在も現役のハーバード大学教授として、研究、講義、学生の指導、政策提言などを精力的に行っており、近年は特に安全保障の経済学に関心を示している。

Bloomberg